

た じ ま も ち ふ ね
田島持舟遺跡

— 足利市田島町地内—

田島持舟遺跡は、足利市街地から北へ約4 km、渡良瀬川の支流である田島川の沖積地から東側の丘陵裾部に立地します。発掘調査は、北関東自動車道建設に先立ち、平成16～21年度に実施しました。

調査の結果、弥生時代から平安時代を中心とした竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑・井戸跡・壺棺墓・古墳・溝跡などの多種多様の遺構が発見され、土器や石器などたくさんの遺物が出土しました。

弥生時代の遺構は、田島川沿岸の微高地上から発見されており、中期後半の壺棺墓1基、後期のたてあなじゅうきょあと竪穴住居跡3軒などがあります。竪穴住居跡から出土した土器は、県央～県東部のものとは異なり、縄文を施し粘土紐の接合の跡を残す埼玉方面のものや、櫛で波状文を重ねて描く群馬方面のものが多く、この地域の特徴がよく現れています。

また、古墳から平安時代の集落跡は、調査区の東側の丘陵裾部に集中しており、繰り返し構築されています。注目される遺物として、古墳時代後期の竪穴住居跡から土製六鈴鏡や金銅製耳環、土坑から水晶製切り子玉が出土しており、隣接して東側の尾根上にある菅田古墳群（前方後円墳・円墳など約50基で構成）との関連が考えられます。

古墳時代の土製六鈴鏡・田島持舟遺跡（足利市）

銅製鏡の周りに鈴をつけた「鈴鏡」を真似て粘土で焼いて作ったものが「土製鈴鏡」です。鈴の数が名称に表れており、田島持舟遺跡のものは、鈴を表現した瘤が6個あるので、「土製六鈴鏡」と呼ばれています。

「鈴鏡」は関東地方で出土した巫女と思われる女人の埴輪の腰に下げられているものがあり、祭祀に係わる特殊な道具と考えられています。「土製鈴鏡」にも同じような役割があったのでしょうか。

田島持舟遺跡の「土製六鈴鏡」は、縦7.2cm、横6.1cm、厚さ1.3cmで、竪穴住居跡の埋土の中から出土しました。「土製鈴鏡」の確認例は、古墳時代後期（6～7世紀）を中心に全国でも9遺跡14例と決して多くはなく、竪穴住居跡からの出土例は極めて稀です。



「五鈴鏡」宇都宮市雀宮牛塚古墳出土 ※複製



土製六鈴鏡
田島持舟遺跡出土



土製鈴鏡出土遺跡（櫻村 2011）



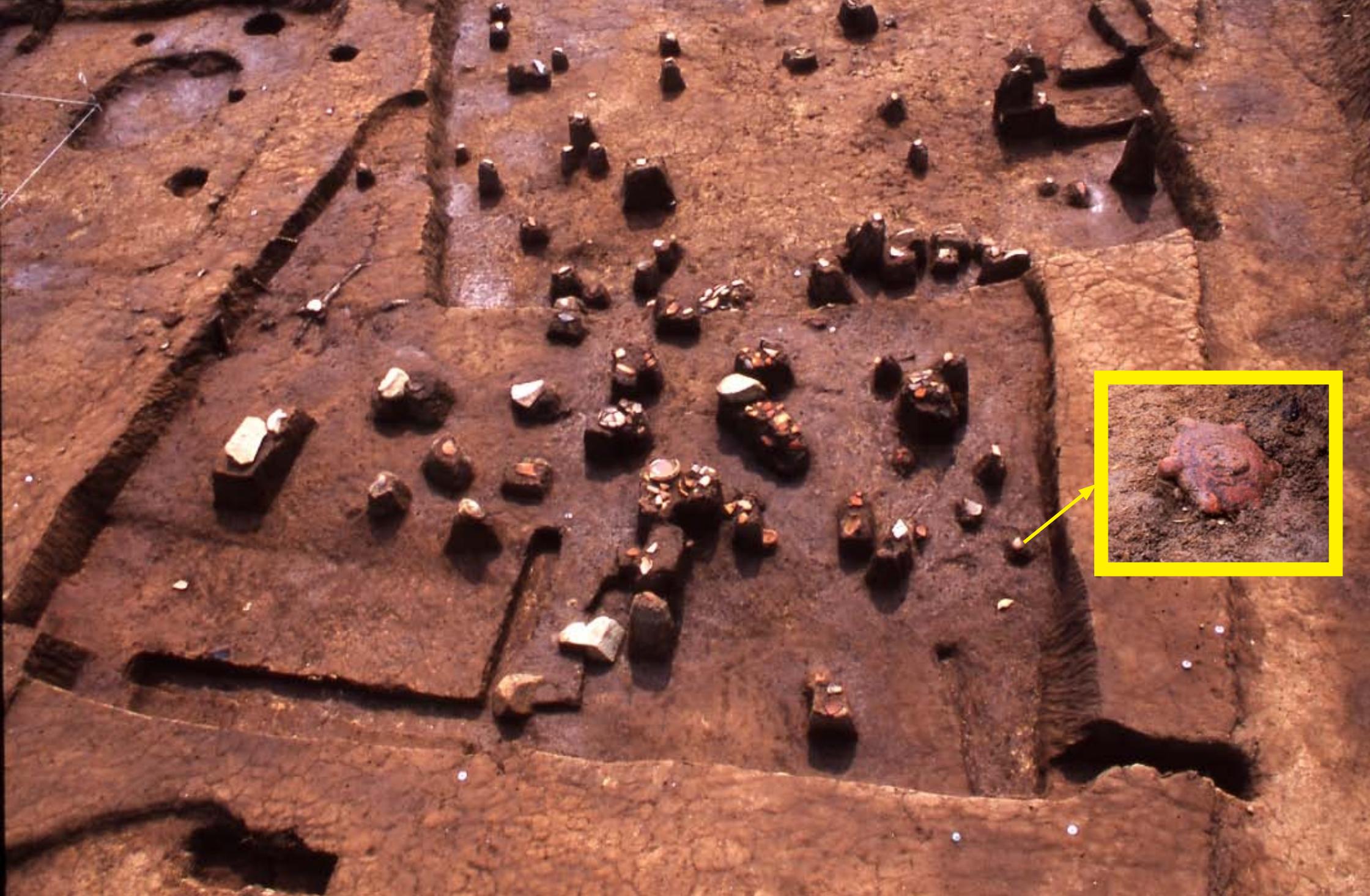
鈴鏡を下げた巫女の埴輪
太田市塚廻り3号墳出土 群馬県立歴史博物館



菅田古墳群

発掘調査区

田島持舟遺跡遠景（北東から）



第 443 号住居跡遺物出土状態（古墳時代後期）



第 9 号壺棺墓 (弥生時代中期後半)



第 130 号住居跡遺物出土状態（弥生時代後期）